

引原ダム再生事業

News:「ダム再生通信」の創刊決定

— ダムが新しく生まれ変わるプロセスをお届けします —



引原ダムは、昭和33年に完成した重力式コンクリートダムです。

「ダム再生通信」について

引原ダムの再整備が本格的に始まります。私たちは、この事業の進捗や舞台裏、現場の工夫などを「ダム再生通信」として毎月お届けします。地域の方々や関係者の方々と、引原ダム再生のストーリーを共有していきますので楽しみに！

地域の安全を守るが、私たちの仕事です。



..... ダム再生の豆知識

今回の再整備では、ダムの本体(堤体)の約2m嵩上げや放流設備の改良・新設を実施します。これは、より多くの水をためられるようにすることで、洪水時の安全性を高め、渇水時にも安定して水を供給するためのものです。



引原ダムの再生計画について

引原ダム再生事業では、老朽化した設備の更新に加え、近年の豪雨の頻発・激甚化を踏まえた引原ダムの洪水調節機能(洪水調節容量の拡大や(予備)放流能力の拡充)の強化に取り組んでいます。ダムを再生することで、治水安全度のさらなる向上を図り、揖保川流域の浸水被害の低減が可能となります。また、これらの整備により、放流能力不足など、現行の基準に準拠したダムになります。

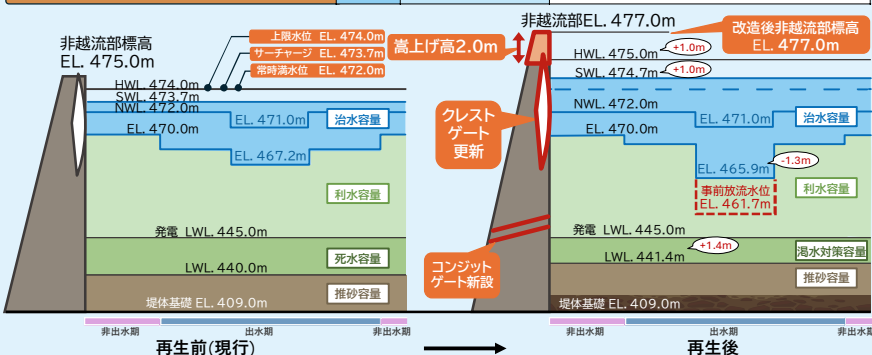


一級河川
二級河川

兵庫県
中央市



区分	項目	ダム再生後(案)
ダム	目的	(洪水調節機能強化)
	天端標高	標高 477.0m(+2.0m)
	堤高	68.0m(+2.0m)
	設計洪水位 [HWL]	標高 475.0m(+1.0m)
	サーチャージ水位 [SWL]	標高 474.7m(+1.0m)
	予備放流水位	[7/1~9/30]標高 465.9m(-1.3m)
	事前放流水位	[7/1~9/30]標高 462.5m(-1.5m)
	計画堆砂位	標高 441.4m(+1.4m)
	計画堆砂量	2,000 千m ³ (ダム再生後100年分) (現在までの堆砂量1,130 千m ³ は含まない)
	洪水調節容量	<洪水期> 7,380 千m ³ (+1,730 千m ³)
貯水池	渇水対策容量	1,000 千m ³ (+1,000 千m ³)
	放流設備	クレストゲート 幅7.0m×高さ11.445m×2門(更新)
		コンジットゲート 幅2.30m×高さ2.30m×1条
		ダム設計洪水流量 910m ³ /s



工事の工程

※現場の状況により工期延伸する可能性があります。

区分	年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
準備工								
ヤード造成								
仮設備								
減勢工・導流壁・河川取付部								
コンジット放流設備								
クレストゲート								
堤体嵩上げ								
管理設備等								

治水容量を拡大し、暮らしの安全度を格段に向上!

再生事業前



揖保川流域の水害リスクを大幅軽減

主要工事	概略諸元	備考
堤体嵩上げ	2 m 嵩上げ	
放流設備新設	放流管(φ3,400 mm)、引降ラジアルゲート(幅2.30 m×高さ2.30 m×1 門)	放流能力 100 m ³ /s
減勢工改造	幅25.5 m×延長98 m	
クレストゲート更新	幅7.0 m×2 門	
管理設備更新	管理所移設、管理設備更新	
国道29号/管理用道路付替	国道(左岸300 m)、管理道(右岸100 m)	

再生事業完了後



管理用道路付替

堤体嵩上げ

クレストゲート更新

管理設備更新(管理所等)

国道29号付替

減勢工改造

放流設備新設(コンジットゲート)